

10.九州（地域別調査機関：（財）九州経済調査協会）

（-：回答が存在しない、：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
家計 動向 関連	良く なっている	乗用車販売店 （管理担当）	販売量の動き	・新車販売の駆け込み需要が発生している。中古車販売は下取り車が少なく厳しい状況であり、整備サービスはまずまず安定してる。景気が良いというよりは状況が良い。
		一般小売店〔鮮魚〕（店員）	販売量の動き	・土用の丑の日の注文が例年よりは入っている。店で焼くという売り方が奏功したようである。客は値段だけに反応しているわけではない。
	やや良く なっている	百貨店（業務担当）	お客様の様子	・猛暑の影響で夏物の最終処分が好調である。必要に迫られている需要ではあるが、提案商品の秋冬商品より、展開を夏物にシフトしてきたことが功を奏した。
		スーパー（店長）	販売量の動き	・生鮮食料品以外の住居関連商品の動きが若干戻りつつある。今まで売れなかった物が少しずつ売れてきている状況である。
		スーパー（経理担当）	販売量の動き	・前年の6月後半から大幅な販売額の減少が続いていたが、今年7月、8月で大分改善してきている。ただし、廉価志向と猛暑による消費減退の影響はある。
		衣料品専門店（店員）	販売量の動き	・暑かったため、夏物衣料のセール品の動きが良かった。
		衣料品専門店（総務担当）	お客様の様子	・客の様子に、やや明るさがある。
		家電量販店（店員）	販売量の動き	・通常お盆過ぎには動きが止まる季節商材のエアコンや扇風機が、この暑さでまだまだ伸長している。冷蔵庫も数字を押し上げている。エコポイント制度の影響で、もともとテレビはある程度動きがあったこともあり、今月はやや良い。
		家電量販店（総務担当）	販売量の動き	・猛暑によるエアコンと、エコポイント制度対象の薄型テレビが大幅に伸長している。
		乗用車販売店（従業員）	販売量の動き	・エコカー購入補助金制度の終了間際ということもあり、駆け込みで受注が増えている。しかし、円高の影響は懸念される。
		乗用車販売店（販売担当）	販売量の動き	・エコカー購入補助金制度が9月までということもあり、今月は過去例をみないような受注があった。特別需要であるが、大きな受注ができた。
		その他専門店〔書籍〕（店長）	販売量の動き	・ゴールデンウィーク明け以降に売上の低迷が始まったが、今月はお盆休みを明けてからも順調に推移しており、来客数も多く、売上量も伸びている。
		その他小売の動向を把握できる者〔ショッピングセンター〕（支配人）	来客数の動き	・前半は厳しい状況が続いていたが、後半は上向いている。
		通信会社（企画担当）	販売量の動き	・やや季節要因もあるが、販売量が伸びている。
		設計事務所（所長）	販売量の動き	・耐震診断を含め、公共工事が多く出ている。
変わらない	商店街（代表者）	来客数の動き	・案内や売出しのチラシを送ってもなかなか人が集まってこない状況にある。	
	商店街（代表者）	来客数の動き	・猛暑のせいにはしたくないが、前年比で来客数と購買客が減少している。当然、店頭の上は減少している。インターネット販売は順調である。	
	百貨店（営業担当）	お客様の様子	・今月は、暑さの影響で非常に厳しい状況である。ただ、高額品やハイファッション等の動きが前年よりも非常に良くなっている。また、夏物セールは厳しいが、先行して秋物の動きが早くなっており、今後先行きは良くなる。	
	百貨店（営業担当）	お客様の様子	・来客数は前年並みで推移しており、レジ客数は減少、買上単価の微増で売上は前年並みとなっている。しかし、猛暑等の影響で購買意欲が減退しており、バーゲン売上が伸び悩んだ。一方、粗品付きの全店特別招待やギフト商品解体セール等お得感のある催事への関心は高い。必要な商品、お買得な商品に敏感に反応し、慎重な購買姿勢が継続している。	
	百貨店（営業担当）	販売量の動き	・今月に入り、来客数は前年並みまで回復基調であるが、買上率は前年比90%前後で推移し、前月までとほぼ同じ推移である。	

百貨店（営業企画担当）	販売量の動き	・客は購買意欲はあるものの財布のひもは固い。
百貨店（売場担当）	販売量の動き	・今月は、おそらく前年比98%となる。ただし、購買率は前年比で0.9ポイント低下し、1品単価は1ポイント増である。宝飾品や高額品の動きが悪く、UVカットの parasol や化粧品等の夏物商材はまだ売れている。衣料品は、夏物がやや品切れの感があり、秋物が売れていない。夏物商材がとにかく足りない。
百貨店（企画）	販売量の動き	・今月の売上高は3か月前と同様の前年比増で推移している。来客数は、前年が新型インフルエンザの影響で大幅減であったため、反動で増加している。一方で、今年は猛暑により、秋物の動きが弱いことや夏物商材の不足等の影響で、売上高は前年を変わらない。
スーパー（経営者）	販売量の動き	・客の様子をみると、まとめ買いがなく、買い控えがある。
スーパー（店長）	販売量の動き	・食料品は前年比112%と2けた増で推移しているが、衣料品は同82%で推移している。衣料品は夏物衣料が売れない状況であり、年々下降気味である。食料品は青果を中心に前年比120%の見込みである。販売スタイルを変えデスカウント化したことにより、今のところ成功している。
スーパー（店長）	お客様の様子	・消費者の節約志向やデフレ傾向が逆風となっており、なかなか売上が増加しない。ただ猛暑の影響もあり、食品では飲料、衣料品では肌着関係等、一部好調に推移している商品もあるが、全体を押し上げる要因にはなっていない。
スーパー（店長）	来客数の動き	・食品の中元ギフトの来客数が変化しており、今まで百貨店で購入していた客が、安いスーパーの方にシフトしている。ギフト自体は前年並みの売上を確保したが、その他の食材は今一歩伸びていない。客単価は円高還元セールを実施したため、あまり変わらない。
スーパー（店長）	お客様の様子	・直近の5～7月は比較的回復基調にあったが、今月は、足踏み状態から少し後退している。中元ギフトや初盆等の客の買い方、実際の数値をみると前年よりもかなり下回っている。ただ日々の日用品や食料品等の売上、数量はほぼ前年並みか、前年を上回っている。
スーパー（総務担当）	お客様の様子	・猛暑の影響により季節商材は伸びているが、それ以外は買い控え傾向が続いている。
スーパー（業務担当）	お客様の様子	・衣料品は夏物処分品でも値段が高いという客からの声が多くあり、客は安い物に慣れている。また、昨今の猛暑の影響で生鮮食料品が全般的に高値で推移しているが、これに関しては予想よりクレームや改善要望は少なく、むしろこんな状況だから仕方がないという諦め感が強い印象を接客のなかで強く感じる。
コンビニ（経営者）	単価の動き	・大半の店は来客数が前年を下回っている状態であるが、一部の店では前年を上回る店も最近出てきた。客単価の前年割れが依然続いている。必要な物しか買わない状況が続いている。
コンビニ（エリア担当）	単価の動き	・今月は異常気象のため気温が上昇し、アイスや飲料の売上が大幅に増加した。ただその他、主力の弁当等の売上が伸び悩み、全体的には前年をクリアすることができなかった。
コンビニ（エリア担当・店長）	単価の動き	・目的買い以外のもう1品の買物がなく、客単価も変わらない。
衣料品専門店（店長）	来客数の動き	・炎暑により、客の来街者数が激減している。暑さが当分続くので、今後も期待できない。
衣料品専門店（取締役）	お客様の様子	・今月は夏物のセールの最終と秋物立ち上がりという非常に難しい時期である。衣料品はこの猛暑で延々とセール品を売り続け、割引率が大きくないと客は満足しなくなっている。それを上手く利用しながら、暑くても着られる秋物衣料を見せてなんとか工夫した。ただ、客の財布のひもは固く、気に入れば買うが、なかなか難しい状況でとなっている。
乗用車販売店（総務担当）	販売量の動き	・エコカー購入補助金制度の期限が迫り、以前に増して新車を買って求めて来店する客が増えている。駆け込み需要が販売台数を増加させている。
その他専門店 〔コーヒー豆〕 （経営者）	販売量の動き	・売上は前年比でほぼ横ばい状態となっている。新旧の客の入れ替わりはあるが、客単価及び販売量をみると、前年と変わらない状況である。

その他専門店 [ガソリンスタ ンド] (統括)	販売量の動き	・例年になく猛暑が継続しており、燃料油の販売数量は前年よりやや増加しているが、カーケア商品の販売は前年並みである。必要な商品の購入は順調だが、付加価値商品の販売は控えめである。	
その他小売の動 向を把握できる 者[土産卸売] (従業員)	来客数の動き	・3～8月までの半年間の売上は前年比85%程度で終わっている。他社の担当者と話しても同じような状況である。	
高級レストラン (専務)	来客数の動き	・週末には若干人が出てくるようになったが、本当に安い居酒屋へ客が偏っている。居酒屋は価格競争で利益が出ていない様子が伺える。旅行者はできるだけお金を使わないよう、昼はラーメン、夜は居酒屋という傾向が強まっている。	
高級レストラン (支配人)	お客様の様子	・来客数はさほど変わらないが、利用金額も比較的低价格な物にシフトしており、高額な物があまり動かない。	
高級レストラン (従業員)	来客数の動き	・マスターコーヒーを飲む客がものすごく減っている。	
一般レストラン (スタッフ)	単価の動き	・お昼の客が多く、単価の安い物しか出ない。	
旅行代理店(従 業員)	販売量の動き	・夏休みの予約数は前年並みであるが、ホテルのランクを下げたり、宿泊数を減らしたりしているためか、単価が一割以上下がっている。	
タクシー運転手	来客数の動き	・今月は夏のイベントが市内で多く開催されるが、今年イベントに不参加の大手企業が多く見受けられ、今一つ盛り上がり欠けた。また、終了後の客のタクシー利用が極端に減り、売上は前年比マイナスであった。	
タクシー運転手	お客様の様子	・今年是非常に暑いため、人はあまり家から出ない。病院に行く客のタクシー利用はあるが、距離が近いので売上はプラスにはならない。夜も熱帯夜であり、夏バテのためか繁華街も芳しくない。	
通信会社(管理 担当)	それ以外	・資金繰りが厳しい状態が続いている。	
通信会社(営業 担当)	それ以外	・世の中の不景気に加え、口蹄疫の影響がまだまだ根強く残っており、景気は非常に悪い状況で推移している。	
ゴルフ場(従業 員)	来客数の動き	・前半は、毎年行なわれるイベントの中止により、見込まれたコンペの数も大分減った。またお盆には高速道路料金の引き下げや口蹄疫の発生による家畜移動制限の解除の影響である程度の来客を見込んでいたが、期待外れとなり、思うような来客数につながっていない。	
ゴルフ場(支配 人)	来客数の動き	・雨天が多い天候が春先から梅雨まで続き、その後は一転して猛暑であるため、客の入りは非常に悪い。この悪い状況がずっと続いている。	
美容室(店長)	来客数の動き	・3か月前と比べると来客数は多少多くなっているが、特に良くなっているか、悪くなっているかは判断し難い。	
その他サービスの動 向を把握できる者[介護 サービス](管理 担当)	来客数の動き	・今月の利用客数は、前月の利用客数と比較して横ばいである。	
住宅販売会社 (従業員)	販売量の動き	・来客数、契約数共に前年を下回っている。	
やや悪く なっている	商店街(代表 者)	販売量の動き	・記録的な猛暑が続き、来客数が減っている。朝と夕方しか来客がおらず、実際の購入にも至らない。
	商店街(代表 者)	お客様の様子	・今月は例年になく猛暑が続き、われわれ商店街では空調設備がないため、近くの客、年配の方がなかなか来ない。その分スーパー等は駐車場が広く、冷房も効いており、ゆっくり買物ができるため、客が流れているので、夏の商店街には客が来ない。
	商店街(代表 者)	来客数の動き	・猛暑のためか主力であるおしゃれ着の販売が不振である。商店街の来客数が減少している。
	商店街(代表 者)	来客数の動き	・先月、今月と非常に暑い日が続き、特に高齢者の足が遠のいている。

	一般小売店〔青果〕(店長)	お客様の様子	・非常事態宣言が解除された後も口蹄疫のマイナスイメージは払しょくされず、厳しい状況となっている。夏場で地元の野菜や果物がなく、気候の影響もあり、商品は少なく、価格が高く、味も悪いという厳しい状況が続いている。
	一般小売店〔茶〕(販売・事務)	販売量の動き	・真夏日が続き、日本茶の売上は最低である。法事の返礼品が多少あったため、今月は持ち堪えた。
	百貨店(売場主任)	それ以外	・急激な円高、株安、政局の混迷などのマイナス要因が発生し、消費を取巻く環境が悪くなっている。消費者の動向はやや悪くなっている。
	百貨店(営業企画担当)	単価の動き	・猛暑、酷暑の影響により、来客数が大幅ダウンしている。さらに客単価の低下トレンドが続き、売上は前年実績を大きく落として推移している。中盤からの価格訴求の告知で一時的に来客数は回復したものの、客の購買意欲は依然低い。
	スーパー(店長)	単価の動き	・以前と比べて、価格に更に敏感になっている。全体に占める特売品の構成比が増え、客を見ていると複数店舗の買い回り傾向が顕著である。
	スーパー(総務担当)	来客数の動き	・来客数の動きに加え、低単価の動きも顕著となり、販売の動きも変化をしていない。
	スーパー(企画担当)	販売量の動き	・円高、株安等の影響で景気回復の見通しは遠く、食品関連の消費動向も依然として低水準で推移している。猛暑による青果物の不作と高騰、水温高による秋刀魚等を始め、魚介類も不漁である。アイスクリームや飲料、デイリー水物関連の売行きは好調であるが、主力生鮮食品をカバーするまでには至っていない。
	コンビニ(販売促進担当)	販売量の動き	・今月は量販店が前年比103.3%、コンビニが同96.6%、ローカルスーパーが同101.9%とほぼ前年を上回っている。特に、量販店のデリカ部門で販売している280円、290円の価格帯の弁当が非常に良く出ている。コンビニのデリカ部門が前年比97.9%とかなり落としており、厳しい状況である。
	衣料品専門店(経営者)	来客数の動き	・エネルギーは前年の2割増しぐらい費やしているが、売上はなかなか上がらない。
	住関連専門店(経営者)	単価の動き	・少ないながら出ていたブライダル客が、今月は少ない。買い回り商品を1店舗で見決めて決める客は少なく、希望に合った商品を探して回り、在庫管理も大変厳しくなっている。
	その他飲食〔居酒屋〕(店長)	お客様の様子	・焼酎ブームが去ってしまい、厳しい状況である。猛暑に加え降灰によって、繁華街の客はめっきり少なくなった。
	観光型ホテル(スタッフ)	販売量の動き	・宴席の問い合わせが極端に減少している。期間限定でビアホールをオープンしているが、週末に予約が集中し、売上は思ったほど伸びない。
	都市型ホテル(副支配人)	単価の動き	・今月は例年の団体客もインターネット予約に変わり、単価が下がっている。
	タクシー運転手	来客数の動き	・前半はいろいろな所でイベントがあったため良かったが、後半はかなり悪い状況であった。全体としてみれば、横ばいである。
	通信会社(総務担当)	お客様の様子	・雇用や所得が悪い水準で落ち着いており、住宅投資も低調に推移している。個人消費は一部に持ち直しの動きがみられるものの弱く推移している状況下で、当社では新規契約者数の伸びが鈍化しており、景気は下向きである。
	通信会社(業務担当)	販売量の動き	・携帯電話単独の販売はかなり厳しく、パソコンやデジタルフォトフレームとのセット販売などでカバーしているが、全体としては販売台数は前年比で減少している。
	美容室(店長)	来客数の動き	・店の周辺にあった企業がほとんど博多駅方面へ移転し、来客数が減った。
	住宅販売会社(従業員)	お客様の様子	・土地の売買関係の問い合わせ数は、先月に比べて少ない。また、客の予算が非常に厳しく、成約に至る件数が少なくなっている。
悪くなっている	一般小売店〔生花〕(経営者)	販売量の動き	・今月は、3か月前の春の時期より売上は毎年ながら落ちている。記録的な猛暑というもあるが、ギフトに花を選ぶ客は少ない。

		衣料品専門店（店長）	来客数の動き	・暑さだけのせいでもないが、客の外出がない。レジャーでも金のかからない所への外出は多く、客の財布のひもが固くなっている。
		高級レストラン（経営者）	来客数の動き	・今月はお盆があったが、お盆の前後はどちらも動きが鈍かった。お盆前の時期に法事の客の取り込もうとホームページ掲載していたが、動きが良くなかった。
		スナック（経営者）	来客数の動き	・先月は若干持ち直したかのようにみえたが、今月は再び落ち込みが激しい。
		観光ホテル（総務担当）	来客数の動き	・8月は最も売上が落ちる月だが、前年と比べても来客数が減少している。
		タクシー運転手	お客様の様子	・あまりに暑過ぎて県内外の客があまり動かず、夜は週末だけ少し動くという状況である。ここまで厳しい夏は初めてである。
		テーマパーク（職員）	来客数の動き	・口蹄疫の影響で、年間で高稼働率の夏休み時期に思うように伸びていない。
企業 動向 関連	良く なっている	-	-	-
	やや良く なっている	農林水産業（経営者）	受注量や販売量の動き	・毎日暑い日が続き、ビールの消費が伸びる中、居酒屋、スーパーなども順調に流れている。口蹄疫の影響も、家畜の移動制限が解除され、少しずつ従来の形に戻りつつある。ただし、冷食メーカー向けの需要は相変わらず厳しく、従来の80%程度の動きである。食品業者はかなりの在庫があり、経営の先行き不安の話聞く。
		建設業（社員）	競争相手の様子	・発注工事が多く、偏りのなく受注できているように見受けられる。来月までは上半期分の発注が続くので、このまま良い状態が続く。受注する業者が偏ると、景気の良い業者と悪い業者の差がはっきりする。
		通信業（職員）	受注量や販売量の動き	・情報通信分野のインフラ整備に関する官庁工事を、予定以上に受注する見込みである。
		経営コンサルタント（代表取締役）	受注量や販売量の動き	・受注件数や金額が堅調に推移している。
		その他サービス業〔物品リース〕（従業員）	受注量や販売量の動き	・8月は例年、休暇等で営業日数も少なく受注も低調に推移する時期ではあるが、5千万円以上の大口設備案件の引き合いが数本出ており、成約も相次いでいる。
変わらない		繊維工業（営業担当）	取引先の様子	・生産が国内に戻りつつある。中国工場の不安定な報道が多いのも原因のひとつである。
		家具製造業（従業員）	受注量や販売量の動き	・今期4～6月までは商業施設の物件量、ホテル等の出店量が共に前年を上回り、受注量も前年比10%程度プラスであったが、前月、今月は急激に受注量が減り始め、2番底のように感じている。
		一般機械器具製造業（経営者）	受注価格や販売価格の動き	・引き合い物件では動いているものの、赤字覚悟の見積物件が多い。
		電気機械器具製造業（経営者）	受注価格や販売価格の動き	・受注の価格が予想できない。下がる傾向ではあるが、仕事量はなんとか確保できている。来月なるとどのような動きになるのか、非常に心配である。
		電気機械器具製造業（経営者）	取引先の様子	・半導体関連は、予想に反して景気動向は上昇基調となっており、全く夏枯れは感じられない。また日々、精密機械関連も多忙を極めている。
		輸送業（従業員）	受注量や販売量の動き	・今年は猛暑のため、飲料や家電製品などの売上が前年に比べてかなり伸びている。一方で、暑さのため食が進まず、食料品の伸びが悪くなっている。売れる物と売れない物とで二極化している状況は、あまり変わらない。
		輸送業（総務）	受注量や販売量の動き	・車や家電の販売は、エコポイント制度やエコカー補助金制度の効果で販売台数は伸びているが、輸送業にはあまり効果はない。猛暑続きで水物は動いているが、青果物は夏枯れの状態である。まだまだ、景気は悪い。
		輸送業（総務担当）	取引先の様子	・アパレルや園芸用品、建築関係などの荷動きが悪くなっている。
		金融業（調査担当）	取引先の様子	・金利の低下等、景気悪化を示す指標が出ているが、取引先の業績悪化や資金繰りの悪化にまでは至っていない。
		金融業（営業）	取引先の様子	・良くなったとは言えないが、落ち込みもみられない。製造業では、大企業からの中小企業の受注が半年ほど前から漸増し、現在は安定している。

		金融業（得意先担当）	取引先の様子	・取引先のなかには、国内需要の低迷に伴い、海外への進出、ビジネス展開を考える前向きな企業と、一方で廃業も含めた経営破たん陥る企業が見受けられる。企業によって明暗が分かれる状況となっており、総じて、概ね厳しい状況には変わらない。
		新聞社（広告）	受注量や販売量の動き	・前年の総選挙関連の広告出稿を除いても、出稿量は対前年を割っており、企業の新聞広告出稿に対する慎重な姿勢は変わっていない。
		経営コンサルタント	受注量や販売量の動き	・コンサル関係の仕事は新しいテーマがなく、仕事はあまり増えていない。これからもその傾向である。
やや悪くなっている		食料品製造業（経営者）	それ以外	・気象状況の影響で原料の入荷が遅れ、製造に影響が出た。
		窯業・土石製品製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・焼物業界は、例年、夏場が特に悪いが、今年は一段と消費が冷え込んでいる。機能性食器は春先に良く出たが、今は動きがなく、量販店や小売店、百貨店等の通常の定番商品も動きが大変悪い。
		金融業（営業担当）	取引先の様子	・年商1億円未満の中小企業の預金高が、減少傾向にある。余資を預金として預ける余裕はなく、むしろ取り崩して運転資金に使うケースが増加している。
		経営コンサルタント（代表取締役）	受注量や販売量の動き	・今月は猛暑により、エアコンや車は非常に良く売れたという話を聞く。実際、エアコンはほとんど売り切れている状況を、店頭で目の当たりにした。特殊な要因ではあるが販売の好調な部分は出ている。
悪くなっている		食料品製造業（経営者）	取引先の様子	・先日、県のフードビジネス商談会に出席したが、バイヤーのほぼ全員が売上の低下を訴えられ、景気の悪さを痛感した。
		金融業（営業職 渉外係）	それ以外	・急激な円高株安の影響で、輸出関連企業の収益悪化が深刻化してきている。
		経営コンサルタント	受注量や販売量の動き	・販売が思うように伸びず、マイナス成長である。販売数量も、数量の少ない物から売れる傾向にある。
		その他サービス業〔設計事務所〕（代表取締役）	競争相手の様子	・市町村が委託する調査、計画、設計等の業務は、入札時に最低価格制限がないと、予算の3割から4割で入札するケースがいくつかみられる。発注量が減少し、同業者が赤字覚悟で受注を確保しようとしている。
雇用関連	良くなっている	-	-	-
	やや良くなっている	職業安定所（所長）	求人数の動き	・新規求人を見ると、前年比は今年3月からすべての月で増加している。また求人倍率も5月以降0.04ポイント上昇しており、若干の雇用失業情勢に明るさを感じられるようになっている。
		職業安定所（職員）	求人数の動き	・有効求人数が2か月連続で前年比2けた増となり、有効求人倍率は前年比で0.06ポイント、前月比で0.03ポイント上昇している。今後も上昇傾向がみられる。
		職業安定所（職員）	求人数の動き	・新規求人数は3,421人で前年比で8.9%増、有効求人数は8,225人で前年比16.5%増である。半導体関連を中心に業績が回復しており、採用意欲が増してきている。
変わらない		人材派遣会社（社員）	求人数の動き	・派遣は、新規の依頼件数が伸び悩んでいる。
		人材派遣会社（社員）	求職者数の動き	・事務は求人数が少なく、倍率が激しいため、なかなか決まらない様子である。中元時期が終わり、求人も落ち着いている時期である。
		新聞社〔求人広告〕	求人数の動き	・5～7月は前年並みで推移していたが、今月の求人大型企画は前年に届かなかった。
		新聞社〔求人広告〕（担当者）	求人数の動き	・半導体関連等の製造業ではラインの増設もあり、求人数が前年比で増加しているが、サービス業の動きは鈍い。
		職業安定所（職員）	求人数の動き	・新規求人数が4か月連続で前年を上回り、新規求職者数も14か月ぶりに減少に転じた。しかし、求人数の前年からの伸びがここ3か月で鈍化したように感じる。今後、注視していく必要がある。
		民間職業紹介機関（支店長）	求人数の動き	・一時的な繁忙増員あるいは欠員補充による人材需要はそこそこあるが、新規需要が依然として少ない。
		学校〔専門学校〕（就職担当）	求人数の動き	・求人は、欠員求人のみである。

	学校〔大学〕 (就職担当者)	求人数の動き	・求人状況は低調なまま推移している。一部に秋採用の求人の動きがあるが、公務員受験等からの進路転向者や留学経験者等を念頭においた調整弁的な動きのようである。また、学生に関心を持っていない企業が継続的に求人活動を行なっている動きも見受けられる。
やや悪くなっている	人材派遣会社 (社員)	周辺企業の様子	・最近、取引先からの支払条件変更の依頼が相次いだ。資金繰りにひずみが出てきている状態である。各企業が倒産か継続かの判断をさせられているような状況にある。
	新聞社〔求人広告〕 (担当者)	周辺企業の様子	・急激な円高で、製造業関連の多い北九州地区では今後厳しさが増す。
悪くなっている	民間職業紹介機関 (社員)	求人数の動き	・派遣需要は戻っていない。キャンペーンや販促等で単発案件の依頼は増えているが、回復の兆しとなるほどではない。